

目次

NPB12 球団 2023 年総括 & 2024 年展望

- ・ 阪神タイガース…03
- ・ 広島東洋カープ…09
- ・ 横浜 DeNA ベイスターズ…13
- ・ 読売ジャイアンツ…15
- ・ 東京ヤクルトスワローズ…17
- ・ 中日ドラゴンズ…21
- ・ オリックス・バファローズ…25
- ・ 千葉ロッテマリーンズ…30
- ・ 福岡ソフトバンクホークス…33
- ・ 東北楽天ゴールデンイーグルス…35
- ・ 埼玉西武ライオンズ…38
- ・ 北海道日本ハムファイターズ…41

12 球団の応援歌とチャンステーマについて…44

ピッチクロック導入について…48

次世代スターを探せ！プロスペクト特集…51

前書き

本日は、リードオフマン 2024 年版を読んでいただき、誠にありがとうございます。今年も締め切りとの熾烈な競争に無事勝利し、こうして皆さんに手に取っていただけること、とても嬉しく思います。

委員会との協議の結果、今年の部誌は昨年と比べ 5 ページほど短くなり、載せられる記事の量が若干減ってしまったのですが、その分、今年はより丁寧な記事となるよう心掛けたつもりです。部誌を作ることの大変さが身に染みるとともに、去年や一昨年に編集を担当してくれていた先輩方には感謝しかありません。

部員は皆すごく熱意をもって記事を書いてくれたので、ぜひ最後まで読んでいただければ幸いです。また、ご来場の皆様は引き続き第 78 回文化祭「ODYSSEY」をお楽しみください！

野球ファンサークル第 7 代責任者 齊藤智幸

阪神タイガース

78 回生 柿の種

80 回生 天野 晃希

こんにちは。78 回生の柿の種です。この記事では阪神タイガースについて書きます。好きな選手は中野拓夢です。

昨年 of 宣言通り阪神タイガースを書けることになりました！80 回生の天野です！ 読みにくいところもあると思いますが、ぜひ最後まで読んでいただけると嬉しいです！

1. 昨シーズンの振り返り

まあ一言でいえば最高でしたね、はい。まあリーグ優勝して日本一になればそうなるだろうという話なんです。というわけで、~~ハイ~~気分を書いていきます。

① チーム全体

矢野燿大監督から岡田監督に代わって迎えた 2023 年シーズン。開幕戦では 2022 年できなかった青柳晃洋が開幕投手を務めました。開幕二戦目には近本がサヨナラ打を放ち富田が初登板初勝利をしました。4 月 8 日のヤクルト戦では大竹、12 日の読売戦では村上が無失点ピッチング。3, 4 月は打線を固定したことが浜地はまり、13 勝 10 敗一分でシーズンが始まりました。5 月は 19 勝 5 敗の勝率、792 というすごい結果で終わりました。3 日の逆転サヨナラから始まり、13 日の岡田監督通算 600 勝、14 日のサテテル逆転満塁弾、20 日の森下サヨナラ打、24 日の島本 4 年ぶりの勝利、27 日の大竹の涙、30 日の近本の初回先頭打者と、2023 シーズンの大勢はここで決まったんじゃないかなと思うほどの快進撃を見せました。このあたりから阪神ファンは優勝するかもと期待を抱き始めました。6 月。3 日のロッテ戦は現地で観戦していたのですが、今シーズンの中で一番応援が楽しかったんじゃないかなと思います。ロッテの牽制ブーイングに対して阪神ファンが拍手でかき消すというカオス状態でした。6 月全体では 8 勝 14 敗と一転急ブレーキをしてしまい、やっぱり阪神に優勝は無理なんだなあきらめかけました。7 月には不動の一番打者近本が死球で離脱するも代わりの森下が大活躍し、11 勝 8

敗。8月には復帰した近本が活躍するなど10連勝でマジックを転倒させました。そして9月。すべての阪神ファンが「アレ」を確信してはいたものの、阪神だから「メークドラマ」されてしまうのではという危機感を抱きながら入りました。9月10日あたりになるともういつ優勝するのかということが話題の中心になっていました。大多数の阪神ファンは本拠地、そして読売戦である9月14日での優勝を願っていました。さらにその日はファンの味方であるサンテレビの中継が決まっていた。9月14日の観戦が決まっていた筆者も祈るような気持ちで待っていました。それもそのはず、その日での優勝は確率1%だったのです。そして伝説の読売戦三連戦に入りました。初戦は西が木浪の一点を守り抜きました。二戦目は点が入らなく最悪になっていたムードをサトテルの満塁弾で吹き飛ばしました。そして迎えた9月14日。先発は才木で無失点ピッチングだったのですが、読売先発の赤星に完全に抑え込まれていました。走者を一、三塁に置いた四番大山の打席。外野に飛び犠牲フライとなりました。その流れのままサトテルがツーラン！！ 確実に勝ったと思いました。7回裏にも一点を追加し、9回表を迎えました。いつもの岩崎の登場曲で来ると思っていたのですが、なんと流れてきたのは亡くなった横田の登場曲であった「栄光の架け橋」でした。このあたりのことはサンテレビがYouTube上に上げているのでそちらを見ていただけると詳しいことが分かると思います。いつも通り四者凡退で「0点に抑えることができてよかったです」をしようと思いましたが、被弾してしまいました。が、被弾を除くといつもの岩崎のピッチングで優勝しました。すごくうれしかったです（小並感）そのあとのシーズンに関してはあまり記憶がないのですが門別がよかったことだけ覚えてます。

ポストシーズンに関しては日本一になる気しかしてなかったのでコメントはないです。（決して時間がないとかそういうことではない）

② 投手

12球団トップクラス、セリーグではおそらく1位の投手陣を矢野政権で築いてきた阪神タイガースですが、やはりそれは今年も健在でしたね。

先発投手：村上、大竹、伊藤将、才木、西勇、青柳、西純

中継投手：岩貞、石井、加治屋、島本、桐敷、及川、ケラー、桐敷

抑え：湯浅、岩崎

今年の先発投手陣は、去年投手三冠の青柳や防御率2点台だった西勇輝らがこぞって不調となかなか危ない状態になりましたが、一昨年、去年と二軍で投手

二冠だった村上頌樹や、現役ドラフトで加入した大竹耕太郎、イニングイーターの伊藤将司に、昨年トミージョン手術からの復活を遂げた才木浩人らの盤石先発陣を築きました。終わってみれば、先発右腕の防御率は 2.99、左腕の防御率は 2.42 と神がかった成績になりました。

中継、抑え投手は、去年活躍した湯浅や浜地が不調で一時期危うかったですが、岩崎の抑え転換もハマリ、セリーグ no. 1 の中継ぎ防御率である 2.39 を記録しました。また、中継投手を前半と後半に分けて役割別に書いていくとおそらく下のようになると思います。

前半…岩崎、石井(セットアッパー)、湯浅(抑え)、加治屋(火消し)、ケラー、岩貞
後半…岩貞、桐敷(セットアッパー)、岩崎(抑え)、島本、石井(火消し)、加治屋、及川

他にも、後半戦では岡留を半戦力化できたり、岡田監督が「スペードのエース」と評したように、~~永遠のルーキー~~桐敷を火消し、回跨ぎ、セットアッパーなど様々な場面で使ったり、石井を火消し要員にしたりと、前半戦ではあまり見られなかった多様な投手起用が見られました。逆にその影響で登板数がかさんだ加治屋や石井が後半戦でやや調子を落としました。来年以降は火消しを火消しのみに専念させることでこの問題を解決できるのではないかと思います。

③ 打撃

昨年までは「あとは、打者だけなんやが…」「たこ焼き打線」(←たこ焼きならもはや打線ではないのでは…?) などと言われてきましたが、今期から岡田監督が四球の査定をあげたことにより、チーム全体で「四球＝ヒット」という考えが浸透し、チーム四球数は 494 個と断トツ一位を記録しました。チーム打率は 2 位の .247、チーム ops は 3 位 .674 の、チーム本塁打に関しては 5 位の 84 本でしたが、チーム総得点は 534 点と断トツトップでした。また、得点圏打率の鬼近本を筆頭に大山、木浪らがチャンスで打ちまくった結果、チーム得点圏打率も .270 と素晴らしい数字を残しました。

今年のポジション別の成績をまとめてみると、

捕：梅野…試合：72 打率：.194 ops：.514

坂本…試合：84 打率：.226 ops：.543

一：大山…試合：143 打率：.288 ops：.859

二：中野…試合：143 打率：.285 ops：.692
三：佐藤輝…試合：132 打率：.263 ops：.837
遊：木浪：試合：127 打率：.267 ops：.653
小幡：試合：47 打率：.282 ops：.669
左：ノイジー：試合：133 打率：.240 ops：.623
中：近本：試合：129 打率：.285 ops：.809
右：森下：試合：94 打率：.237 ops：.691
前川：試合：33 打率：.255 ops：.676
代打：糸原：試合：69 打率：.236 ops：.587
原口：試合：54 打率：.192 ops：.577
ミエセス：試合：60 打率：.222 ops：.666
渡邊諒：試合：59 打率：.177 ops：.527

昨年からの成長点としては、

- ・昨年までは打撃成績があまり良くなかった坂本が、打撃の調子を上げ、また元から持っていた圧倒的なリード、フレーミング能力も健在だったために、梅野が離脱しても投手が安定した投球をすることができた
 - ・四球の査定を up したことで、全体的に打率が上がった。
- といったところでしょうか。

2. 今シーズンの展望

今シーズンのプロスペクトを、昨シーズンの成績に基づいて説明します。

昨シーズンの主力が全員ベストを尽くせるような成績であるならば、おそらく優勝は間違いないでしょう。ただし、昨シーズンのように前年の主力が勤続疲労や二年目のジンクスなどで不調になることも考えられます。ここでは来シーズン一軍で覚醒している可能性が非常に高いプロスペクトを紹介します。

・門別啓人(先発、高卒2年目)

昨年一軍登板は一試合のみでしたが、力強い速球とスライダーやツーシームなどの変化球を武器に二軍で活躍している制球派ピッチャーです。その実力は、岡田監督が隠したいにもかかわらず何故かメディアでネタバレしまくる程。オフシーズンに肩の手術を受けた大竹に替わり今季の開幕ローテーション入りも現実味を帯びている金の卵です。

あと、これはどうでもいい情報ですが、プロ野球選手で「別」という文字が苗字に入る選手は、これまでに別当薫、別所毅彦、北別府学の3人しかおらず、全員殿堂入りしているそうです。

・岡留英貴(中継ぎ、大卒3年目)

昨年一軍プロ初勝利を手に入れた右腕は、サイドスロー気味から投げられるツーシーム、シンカー、スライダーで打者を翻弄します。昨年二軍でストレートの奪三振率が10越えと抜群の数字を残しており、今期はその真価が一軍で試されます。8回の男になれるか見どころです。

・前川右京(外野、高卒3年目)

昨年の交流戦から夏にかけて一軍の試合に出場し、7月の途中あたりまでは3番ライトとしてスタメン出場していました。しかし、その後調子を崩し、それ以降は一軍に上がれないという悔しさがやや残るシーズンとなりました。今季はレフトの守備練習もしているので、課題であるスタミナを解決すれば、ノイジーからスタメンを奪取する可能性も十分にありますね。

・小野寺暖(ユーティリティ、大卒5年目)

昨年は3割を超えた打率を残しながらも、打率1割の渡邊諒の方が代打として多く起用されるという謎現象が見られました。チャンス時のバッティングや右打ちを非常に得意とするバッターでなおかつユーティリティプレイヤーという関本のような選手なので、今シーズンこそはスタメン、代打の両方で多く起用されることを祈っています。~~あと応援歌がダサいです、どうにかしてください、応援団。~~

3. 最後に

皆さんは優勝予想してたことありますか？僕は昨年して、見事カープの2位を的中させました。まあそれはさておきとして、とりあえず、優勝予想はめちゃくちゃ難しいです。オープン戦でいくら調子がいい選手でも、シーズン途中でスタミナが切れたり怪我をしたりする可能性はありますし、昨年との比較は出来ても、他球団との比較はめちゃくちゃ難しいです。じゃあどうしてこんな優勝予想してるみたいな文章書くんだよって思う人もいらっしゃると思いますが、これはあくまで自分が応援するチームに対する希望だと思ってください、当たったらもちろん嬉しいですが。昨年最下位

のチームだろうが、主力が大怪我したチームだろうが、未来への希望を持たないと応援する気なんてまじで湧いてこないと思います。長くなりましたが、この文章を阪神ファンの方が読んで楽しい、面白いと思っていただけたら幸いです。

ご精読ありがとうございました。

78回生 柿の種

藤浪が活躍してくれば今年は言うことはありません。チケット倍率がえげつないことになってました。

80回生 天野 晃希

広島東洋カープ

77 回生 岡本龍太郎

2018 年のリーグ優勝を最後に A クラスから縁遠くなってしまっていた広島東洋カープ。そんなカープにあの新井さんが指揮官として戻ってきた。即戦力の補強に乏しかったこともあって最下位予想をする野球評論家が多い中、なんとリーグ 2 位に躍進。三連覇からの過渡期に終わりを告げ、新たな黄金期を迎えようとしている新生カープには期待で胸がいっぱいだ。

【戦力分析】

○先発投手

選手名	防御率	登板	先発	投球回	勝利	敗戦	奪三振	四死球	WHIP
床田寛樹(29)	2.19	24	23	156.0	11	7	86	34	1.10
九里亜蓮(33)	2.53	26	26	174.1	8	8	129	65	1.06
森下暢仁(27)	3.01	20	20	131.2	9	6	94	39	1.23
大瀬良大地(33)	3.61	23	23	129.2	6	11	103	39	1.13
森翔平(26)	4.53	12	10	51.2	4	2	38	10	1.32
トーマス・ハッチ(30)	4.08	18	2	28.2	1	1	28	14	1.57

※選手名アミカケは執筆時点で開幕ローテ報道

※投球回アミカケは規定到達

※ハッチは MLB での成績

豪華なネームバリューに見えて、防御率はリーグ 5 位と低迷。九里床田森下大瀬良の 4 人に次いでイニングを投げたのがリリーフの島内と栗林というところから分かる通り、5,6 人目の台頭がチームの急務であることは言うまでもない。6 先発で防御率 1.16 と復活の兆しを見せた野村祐輔、何度もローテを掴みかけている遠藤淳志、玉村昇悟らも候補ではあるが、やはり期待してしまうのはアドゥワ、ハッチ、森、黒原の 4 名だ。腕を下げて一軍のマウンドに戻ってきたアドゥワはオープン戦で 3 先発し防御率 1.88。どこかバリントンらしさを感じるハッチは 3 先発で防御率 1.29。森は昨季終盤にローテに定着し成績は上記の通り。黒原はブレイク前年の村上頌樹を上回る成績をウエスタンリーグでたたき出しており、村上のような大出世に期待がかかる。当然のことながら、常廣羽也斗といった新顔がいきなりローテに入ってくれても大歓迎だ。

○救援投手

救援防御率 3.14(リーグ 3 位)

選手名	防御率	登板	投球回	勝利	敗戦	H	S	奪三振	四死球	WHIP
島内颯太郎(28)	2.32	62	58.1	3	3	39	2	61	17	1.15
栗林良吏(28)	2.92	55	52.1	3	7	15	18	54	22	1.13
矢崎拓也(30)	2.81	54	51.1	4	2	10	24	38	28	1.32
大道温貴(25)	2.72	48	49.2	3	1	10	0	49	29	1.29
中崎翔太(32)	2.73	35	33.0	1	0	7	0	24	9	0.91

救援といえば昨季のカープにはめでたいことがあった。島内が 42HP をあげ球団史上初めて最優秀中

継ぎ投手のタイトルを手にしたのだ。賞が制定された 1996 年以来ずっと未獲得だった広島にやっとトロフィーが渡ってきた。シュルツや今村、青木や横山の苦労がようやく実ったのかと思うと感慨深い。さて、現在のブルペン事情に話を戻そう。今季は開幕から栗林が不調で、3 点近い防御率に 7 敗を喫するというらしくない結果となった。栗林が配置転換されているあいだ、抑えの座を任されたのが矢崎、ストレートとフォークのみのツーピッチで 28S を数えた。ニック・ターリーは主力投手のなかでは最も優秀な防御率 1.74 を記録したが、腰痛の不安からか自由契約となった。驚異の勝ち運を楽天でも発揮してくれることを願おう。続いて今季の展望。振り子投法+サイドスローのようなフォームへと変貌を遂げた塹江敦哉がオープン戦 9 試合無失点の好投。森浦大輔も 7 試合で防御率 1.17 と好調だ。ブルペンの左腕不足が問題ゆえ二人の一軍定着を願っている。

○捕手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
坂倉将吾(25)	120	448	.266	105	12	44	3	.347	.757
會澤翼(36)	54	133	.172	20	1	10	0	.260	.492

※打席アミカケは規定到達

カープの正捕手は論じるまでもない。坂倉一択だ。オープン戦で會澤が打率.308 を記録しているなか正三塁手候補のレイノルズが絶不調なため、捕手會澤三塁坂倉もアリではあるのだが長いシーズン、そして来季以降のことを考えると坂倉は捕手でいきたい。坂倉の下世代では鈴木誠也との自主トレで打撃に成長が見られる高木翔斗がおり、ドラフトで無理に取りに行く必要はないと思われる。

○一塁手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
ジェイク・シャイナー(29)	124	460*	.252	116	30	105	5	.369	.878
堂林翔太(33)	100	284	.273	71	12	35	1	.323	.784
末包昇大(28)	54	146	.273	38	11	27	0	.308	.862
松山竜平(39)	79	156	.252	36	0	27	0	.301	.616

※シャイナーは AAA での成績

※シャイナーの打席数はデータがないため打数を掲載

カープの弱点の一つとも言える一塁手。昨季一塁手としてチーム最多の 60 試合に出場したライアン・マクブルームが退団し、代わりにやってきたのがシャイナー。しかし打高の PCL で OPS.878 は少し物足りない印象。現にオープン戦では OPS.356 と絶不調。堂林が昨年通りの成績を残してくれるのならばいいのだが…。堂林と同じ一塁両翼を守る末包は一塁守備に課題を抱えており、出来ることならレフトかライトで出したいところだ。

○二塁手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
菊池涼介(34)	120	485	.258	114	5	27	7	.310	.641
矢野雅哉(26)	93	146	.185	22	0	27	7	.269	.470
上本崇司(34)	84	276	.259	64	1	17	8	.317	.615
マット・レイノルズ(34)	115	444*	.266	118	22	90	8	.351	.865

※レイノルズはAAAでの成績

※レイノルズの打席数はデータがないため打数を掲載

昨季オフ、菊池の連続ゴールデングラブ賞受賞が10年で途絶えてしまった。逃した理由としては在阪記者という票田の存在や優勝補正、天然芝と人工芝と土の違いを理解していない記者の存在、記者投票のシステムそのものなどが挙げられている。菊池ももう34歳なので、そろそろ後継者が出てきて欲しいところ。順当にいけば矢野か羽月隆太郎だろうが、私は育成の佐藤啓介を推したい。

○三塁手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
マット・レイノルズ(34)	115	444*	.266	118	22	90	8	.351	.865
ジェイク・シャイナー(29)	124	460*	.252	116	30	105	5	.369	.878
田中広輔(35)	111	253	.228	51	6	28	2	.308	.661
上本崇司(34)	84	276	.259	64	1	17	8	.317	.615

カープの弱点とも言える三塁。昨季はデビッドソンが19本の本塁打を放ったが、オフに自由契約。巨人がデビッドソン対策に成功してしまえばお払い箱になると踏んだからであろうが、代わりがレイノルズかシャイナーというのはチームとしてかなり苦しい状況だ。助っ人組がダメとなると、上本や田中に頼ることになりそう。林が復活すれば文句なしだが。

○遊撃手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
小園海斗(24)	80	306	.286	83	6	31	8	.315	.749
矢野雅哉(26)	93	146	.185	22	0	27	7	.269	.470
上本崇司(34)	84	276	.259	64	1	17	8	.317	.615

昨季は小園が開幕から絶不調も、再昇格後は打ちに打ちまくり日本代表にも選出。オープン戦でも当たっている。便宜上、矢野上本の名前を載せているが、今季は小園がフル出場ではないのではないかと考えている。坂本勇人がコンバートした今、ベストナイン遊撃手部門最有力候補だ。

○外野手

選手名	試合	打席	打率	安打	本塁打	打点	盗塁	出塁率	OPS
秋山翔吾(36)	115	483	.274	114	5	38	8	.333	.709
野間峻祥(31)	108	418	.286	106	0	26	5	.351	.672
末包昇大(28)	54	146	.273	38	11	27	0	.308	.862
堂林翔太(33)	100	284	.273	71	12	35	1	.323	.784
上本崇司(34)	84	276	.259	64	1	17	8	.317	.615
田村俊介(21)	10	22	.364	8	0	0	0	.364	.818

誌面が足りないので一言だけ。田村が凄い。あと久保修も。あと中村奨成も。あと中村貴浩も。

【落書き】

1 右	田村俊介	3 割 1 分	15 本	新人王	B9(OF 部門)
2 遊	小園海斗	3 割 2 分	10 本	最多安打	B9(SS 部門)
3 捕	坂倉将吾	3 割 3 分	15 本	首位打者	B9(C 部門)
4 左	末包昇大	2 割 8 分	25 本		B9(OF 部門)
5 一	堂林翔太	2 割 7 分	15 本	ベストファースター賞	
6 三	レイノルズ	2 割 6 分	15 本	GG(3B 部門)	
7 二	菊池涼介	2 割 6 分	10 本	GG(2B 部門)	
8 中	久保修	2 割 4 分	10 本	GG(OF 部門)	新人王特別賞
9 投	床田寛樹	防 1.80	14 勝	B9(P 部門)	最優秀防御率
9 投	森下暢仁	防 2.20	16 勝	GG(P 部門)	最多勝 最多勝率
9 投	黒原拓未	防 2.80	12 勝	最多奪三振	新人王特別賞

横浜 DeNA ベイスターズ

77 回生 神長生織

昨年、一昨年とベイスターズの記事を担当させていただき、今年で三回目の執筆となる。今回は例年と趣向を変えて入退団した選手にフォーカスを当ててみようと思う。

1. 退団した主な選手

今永昇太（→シカゴ・カブス）

言わずと知れた横浜のエース。昨年は7勝と勝ち星は伸び悩んだが174奪三振はリーグトップだった。また、年間を通して一軍に帯同し150イニング近くを消化した。8年間横浜に在籍し64勝を挙げた。

トレバー・バウアー（去就未定）

メジャーリーグでサイヤング賞を受賞した現役トップクラスの右腕。入団時期やけがの影響で年間を通して一軍に帯同していた訳ではないが、10勝を挙げチームに貢献した。退団後はメジャーリーグへの復帰を目指しているが3月16日現在、去就は未定。

エドウィン・エスコバー（→シカゴ・カブス）

7年にわたりブルペンの大黒柱となっていたエスコバー。通算で147ホールドを挙げる実績を持っているものの2023年は苦戦し40登板11ホールドに終わってしまった。

ネフタリ・ソト（→千葉ロッテマリーンズ）

2018年、2019年に連続でホームラン王となったスラッガー。6年の在籍で161本のホームランを放ったが、ここ2年はホームラン数が20本を下回るなど不振だった。

田中健二郎（→くふうハヤテベンチャーズ静岡）

2016年、2017年には60を超える登板、2022年には47登板とブルペンを支えた苦労人。彼の退団により横浜ベイスターズを知る生え抜きはいなくなってしまった。

2. 入団した主な選手

アンドレ・ジャクソン（←ピッツバーグ・パイレーツ）

190センチを超える長身左腕。MLBでは限られた登板機会ながら高い奪三振率を記録した。現時点ではオープン戦でも好調でシーズンを通した活躍が期待できる。

森唯人（←福岡ソフトバンクホークス）

2018年には37セーブで最多セーブを記録するなど救援投手として獅子奮迅の活躍をした。2023年からは先発に転向しているが現時点ではあまり結果が伴っていない。しかし、中継ぎとしては十分な実力を備えた選手であり、活躍が期待できる。

中川颯（←オリックス・バファローズ）

二軍では防御率1.38を記録するなど優秀な成績だったが戦力外となってしまった。184センチの長身を折り曲げ、地上10センチでボールをリリースするアンダースロー投手。素材は一級品であり覚醒が待たれる。

度会隆輝（ドラフト1位）

3球団競合の末にくじ引きで勝利し獲得した。ENEOSではチームを9年ぶりの優勝に導き、タイトルを総なめし、ベストナインに選出された。オープン戦でも連続安打記録を伸ばすなど活躍し「勝ち方」を知る男がチームを優勝に導く。

石上泰輝（ドラフト4位）

オープン戦では渡会と並び活躍をしている選手。特に打撃が力強く内野のレギュラー争いに割って入れる実力を持っている。

佐々木千隼（←千葉ロッテマリーンズ）

2016年のドラフト1位投手。2021年に26ホールドを挙げる好成績を残したもののそれ以外の年ではパツとしない。しかしリーグが変わり高梨雄平のような活躍を期待したい。

3. 総評

有力な投手の退団が相次いでしまった。特に今永は入団してから一貫してローテを回していた投手だっただけに彼の穴をどう埋めるかが重要になる。一方で野手は好素材が入団し流出も少なくレギュラー争いがさらに激化しそれに伴ってレベルも上がっていくだろう。皆さんがこの記事を読んでいるであろう5月上旬にベ이스ターズが首位に君臨していることを祈りつつこの記事締めさせていただきます。

読売ジャイアンツ

79回生 爲近大貴

1. 昨季の総括

まずは、昨季の振り返りとして、簡単にチーム成績を見ていきましょう。

読売ジャイアンツ - 2023

*()内はいずれもリーグ順位

71勝70敗2分 勝率.504 (4位)

打撃成績

打率.252 (1位) 得点 523 (3位) 安打 1218 (1位) 本塁打 164 (1位) 盗塁 48 (4位)

投手・守備成績

防御率 3.39 (5位) 失点 507 (4位) セーブ 31 (6位) ホールド 120 (5位)

与四死球(敬遠含む) 482 (4位) 失策 54 (1位)

第三次原政権5年目、「奪回～GIANTS PRIDE 2023～」というスローガンを掲げて迎えた昨季は2005,06以来、球団史上二度目となる二年連続のBクラス、そして最終的には原監督は退任という大変悔しい結果に終わりました。最後まで調子は上がりきらず、DeNAとのCS争いにも競り負け、球団史に残る低迷期とも言われるほどの苦しい現実を痛感しました。

2. 昨季を終えての改善点

昨季を通して、改善点は明白だったように思えます。

まずは、近年明らかに巨人の弱点となっている投手陣でしょう。先発投手陣こそ、エースがすっかり板についてきた戸郷に加え、自身初となる二桁勝利をあげた山崎、新外国人のグリフィン、メンデス、そして横川、赤星らの若手の台頭などによって防御率は3.16（リーグ4位）と奮闘したものの、救援陣は新外国人ロペスの誤算や、2022年新人王の大勢の離脱などもあり、防御率3.83（同6位）と悲惨な結果となり、リードをして終盤を迎えても

逆転されて負けるという試合も多く散見されました。リリーフ陣の整備はやはり、急務でしょう。

また、打率や本塁打数に比べての得点数の少なさも課題の一つでしょう。先ほど述べたように打率や本塁打はリーグトップだったにも関わらず、得点はリーグ3位の523点と、少し物足りなさを感じてしまいます。なかでも本塁打以外による得点はリーグワーストの270点（リーグトップの阪神は416点）と、一発に頼りすぎていることは否めません。これらの要因の一つとして、得点圏打率の低さが挙げられます。昨季の得点圏打率はリーグ4位の.242と、Aクラスのチームとの差が如実に表れています。他にも四球の少なさなども挙げられますが、いずれにしてもしぶとい打撃が求められます。ただ、ここでいうしぶとい打撃とは、ある程度パンチ力もあって相手の脅威とならなければなりません。個人的には昨季はなかなか出場できなかった松原や、身長的にプロでもスラッガータイプのバッティングを続けるのは厳しい浅野、好不調の波を抑え、負傷離脱を少なくしたい尚輝などの選手にこの役割を期待しています。

3. 今季に向けて期待できる点

そんな散々な昨季ではありましたが特にシーズン中盤から終盤にかけて、今季に向けて期待できる点もいくつか見られました。一番大きいのは若手の台頭です。投手では昨季、すっかりローテの中心となった山崎、シーズン後半は目覚ましい活躍ぶりだった赤星、そして横川もシーズンのかかなり長い時間を一軍で過ごしました。他にも菊池、代木、そしてルーキーの田中千晴、船迫、松井と多くの若手選手の活躍が見られました。北村拓己選手もプロ初登板を遂げましたしね(笑)。野手では、シーズン中盤から3番に定着した秋広、僕の見に行った試合でプロ初本塁打を打ってくれた岡田、そして山瀬も大きく成長を遂げました。こちらもルーキーが大きく躍進し、坂本からショートのレギュラーを奪いかけている門脇、大器の片鱗を見せつけた浅野、そして荻尾も一軍での打席を経験しました。このように、多くの若手が躍動したシーズンでもあり、これらは今季への大きな希望となっています。それに加えて、リリーフエース中川の復帰や即戦力の多いドラフトなどで、今季もワクワクが止まりません。

以上、短くはありましたが、昨季の振り返りと今季に向けての展望を書いてみました。阿部新監督のもと新しいチームとなりましたが、今季の目標はまずはAクラス、そしてもちろん狙うは優勝、です。今季こそはリーグ優勝からの日本一を見たいです。(筆者が野球を見始めた2013年から巨人は11シーズン日本一を達成してません…)

ここまでお読みいただきありがとうございました。来年の文化祭も是非、灘校野球ファンサークルへおこしく下さい。

東京ヤクルトスワローズ

78 回生 今西貴寛

78 回生 塩野健太

〈はじめに〉

野球ファンの皆さんこんにちは、78 回生の今西貴寛と塩野健太です。皆さんは東京ヤクルトスワローズという球団をご存じでしょうか。良くも悪くも浮き沈みが大変激しい球団です。でも、だからこそ毎年飽きずに応援できる楽しいチームだと思っています。

〈23 年総括〉

2021、2022 とリーグ連覇し、今年は日本一を取り返すぞ、と意気込んでいた 2023 年。しかしそこには大きな壁が立ちはだかっていました。

去年の東京ヤクルトスワローズは、一昨年三冠王を取った村上や山田の不振や塩見の怪我、高橋など投手陣の不振により、**6 位中日とゲーム差 0 の 5 位**という結果に終わりました。2 連覇して臨んだシーズンのために不本意ではあったものの、並木、武岡などの若手の台頭や小川の 2 桁など、良い点も見受けられました。にしても、タイトルや B9GG 獲得者が誰もいないのは大変寂しいなと思いました。

〈23 年主な成績〉

打順(守)名前	率	本塁打	打点	OPS
1 (中) 塩見 泰隆	.301	8	31	.873
2 (左) 濱田 太貴	.234	5	22	.652
3 (二) 山田 哲人	.231	14	40	.721
4 (三) 村上 宗隆	.256	31	84	.875
5 (右) サンタナ	.300	18	66	.844
6 (一) オスナ	.253	23	71	.745
7 (捕) 中村 悠平	.226	4	33	.622
8 (遊) 長岡 秀樹	.227	3	35	.575
9 (投) 小川 泰弘	防御率 3.38	10 勝 8 敗	86 奪三振	



控え

川端 慎吾	.319	2	16	.800
宮本 丈	.222	0	7	.646
青木 宣親	.253	3	19	.703

並木 秀尊	.242	1	7	.574
武岡 龍世	.219	1	8	.536
内山 壮真	.229	6	27	.653

その他丸山、古賀など

2021、2022 と燕のリードオフマンとして活躍していた塩見が怪我に悩まされ 1 番打者が固定できませんでした。しかし、そんな中で若手の並木が台頭、持ち前の俊足を生かし 15 盗塁でチーム内盗塁数トップと一昨年に比べ大きく飛躍しました。今年が楽しみです。また、キャプテンの山田がコンディション不良などに悩まされ大きく成績を落としてしまったのは残念な点です。3 月現在、オープン戦での調子は良い方向にあるので期待しましょう。一昨年三冠王を取った村上は大きく成績を落としたとは言っても素晴らしい成績です。wbc もあり働きづめだったので、今オフで心機一転頑張ってもらいたいですね。

先発

小川、高橋、サイスニード、ピーターズ、石川、小澤、吉村

中継ぎ

石山、大西、星、山本、木澤、清水

抑え

田口

マクガフ退団により新守護神が田口となった今シーズン。試合内外で盛り上げてくれた上に 33S を記録し、見事守護神としての役目を果たしてくれました。しかし、左腕中継ぎが山本だけになった影響もあってか中継ぎ陣が崩れて負けてしまっているように感じました。今シーズンからソフトバンクからヤクルトに移籍してきた嘉弥真の経験豊かな救援に期待したいです。先発陣では小川が唯一の規定投球回達成かつ二桁勝利を達成しました。やはりエースは小川だと痛感した 1 年でもありました。

〈退団選手〉

荒木 貴裕(引退)

ユーティリティープレイヤーとして燕を支えた荒木は去年で引退しました。バスターホームランがとても懐かしいです。

杉山・市川・成田・久保・大下・鈴木・松井・吉田・奥村・松本(戦力外)

ピーターズ(自由契約)

西浦(シーズン途中トレード)

元山(トレード)

梅野(現役ドラフト)

〈入団選手〉

西舘・松本・石原・鈴木・伊藤・高橋(6月に正式契約)・高野(ドラフト)

西川遥輝(前楽天)

日ハムのリードオフマンだった、西川選手の入団です。本人の復活はもちろん、楽天でも走塁技術を持ち込み、小深田選手が盗塁王になったので教育面でも期待できます。

増田珠・嘉弥真新也(前ソフトバンク)

まだまだ若手の増田とある程度実績もある嘉弥真です。

〈期待の若手〉

まず一人目は何と言っても澤井廉選手でしょう。ドラフト三位で入団し、プロ一年目からイースタンリーグで本塁打王をとる大活躍。持ち前のパンチ力を1軍でも発揮してくれることに期待です。右の写真は今オフ二軍の宮崎キャンプを訪れたときに撮影した打撃練習をする澤井選手です。

また、同じくパワーが魅力の、ルーキーシーズンに一軍でホームランも放った、北村恵吾選手にも期待です。



〈2024 シーズンの展望〉

期待の若手の台頭や新戦力の獲得により望む今シーズン、野手陣のポジション争いが激化し、チームに活気が現れることに期待です。ヤクルトといえば何と言っても「火ヤク庫」とも称される強力打線が魅力。しかし去年は打線が繋がらない、三者凡退、なことが多かったです。優勝メンバーが少しずつベテランの域に入りかけつつある今、ヤングスワローズの大躍進による世代交代も楽しみです。

二連覇したシーズン、またその前から中軸としてチームを支えてくれている山田・村上・塩見、頼れる外国人コンビのオスナ・サンタナの活躍はもちろんのことながら、中村悠平選手にぜひ期待したいです。中村選手が繋ぐバッティングが出来ている試合は打線がよく繋がり大量得点で勝っているイメージがあります！2021の日本一を達成したシリーズでのMVPにも輝いた活躍は特に印象的でした。

さあここで懸念点はやはりピッチャーですね…。毎年ドラフトも、新獲得選手も投手補強に重点を置いているのになぜなのでしょう…。正直、規定乗るぐらい一年通して回せる、頼れる先発ローテーションが六人思いつかない現状はかなり心苦しいです。救援は清水、木澤、

田口は安定していますが、他の選手は見ているこっちもハラハラしてしまう投球です。どの選手も持ち味があるので、入団してから3年ぐらい経過している選手達には背水の陣で奮闘してもらいたいです。みんな大好き原樹里選手、全ファンが怪我からの復帰を心待ちにしている奥川選手の振り返りも楽しみに待っています。

高津監督5年目となる今シーズン、若手、中軸、新加入選手の融合による爆発的打撃力が投手力もカバーして激アツな試合連発になることは間違いないでしょう。チームスローガンの「**やり返せ！**」のもとに首位奪還するぞー！ ***Go go swallows!!!***

中日ドラゴンズ

78 回生 荒谷詩季

「今年はいけるぞ!!」——本気でそう思った。3月3日、中日ドラゴンズは歴代最強と評された侍ジャパンを 7-2 で破った。投げてはエース小笠原が 5 回 1 失点の好投、打っては田中、アキーノ、細川などの新戦力が躍動。2 年目の立浪竜は逆襲を果たすように見えた。しかし、そんなドラゴンズの前に待っていたのは、**悪夢**のような現実だった。

1. はじめに

野球ファンのみなさんこんにちは。高 2 の荒谷です。2023 年の中日は絶望的な打線（言いすぎかな、）でセ・リーグ最下位に沈みました。中日に関するニュースは悲しいものばかりでした。それでも僕がシーズンを通して楽しめたのは、若手が活躍し、劇的な勝利が多かったからでしょう。ここでは、そんな中日ドラゴンズの 23 年総括、24 年への展望を述べていきたいと思います。選手名は敬称を略させていただきます、ご了承ください。

2. 23 年シーズン総括

1. 開幕前

激動のオフ。これなしには 23 年の中日を語れないでしょう。まず、阿部⇄涌井、京田⇄砂田のトレードには驚きました。二遊間の主力を 2 人も放出することには不安しかなかったですが、ドラフトで内野手を 5 人も獲得したことから、二遊間の競争を激化させるという意図は見えました。また、近年これといった補強をしなかったフロントがメジャー通算 40 発のアキーノを獲得したことにはワクワクしました。他にも、細川、アルモンテ、カリストを獲得しました。これらの戦力補強を行い、冒頭にも述べた通り、後に世界一に輝く侍ジャパンに勝利。~~侍ジャパンの優勝より嬉しかったですね。~~しかしその後、ドラフト 6 位で獲得し開幕スタメン筆頭だった田中幹也が脱臼で今季絶望。22 年最優秀中継ぎを獲得した Y・ロドリゲスが WBC に参加したのち亡命。暗いニュースが続いた中、開幕を迎えることになりました。

2. 開幕～交流戦前

3月31日、巨人との開幕戦、東京ドームに乗り込みます。8 回裏、2-1 の 1 点リードで既に 120 球を投げていた小笠原がまさかの続投。結果中田翔に 2 点タイムリーを浴び、逆転されました。僕はなんで代えなかったんだと絶望していましたが、9 回表に高橋周平のタイムリーで逆転し開幕戦をもぎ取りました。小笠原の熱投に打線が応えたと美談にされ、「小笠原の 145 球」と称されています。しかし結局開幕カードを負け越

し、開幕8戦で12得点と極度の貧打に陥りました(12点のうち半分は開幕戦なんだよなあ)。さらに、4月11日に登板を回避していた大野雄大が手術で今季絶望と判明。イニングを食えるベテランが離脱し、チームは下降の一途を辿ります。そんな中チームを救ったのが現役ドラフトで獲得した細川。和田コーチの指導がマッチしたようで、5月に36安打5本を放ち、月間MVPを獲得。特にバンテリンドでバウアーから2本塁打を放ったのは印象に残っていますね。しかし、それでも打線は向上することはありませんでした。特に開幕4番のアキーノの状態が上がらず二軍に落ちたことが誤算でした。奮闘する投手陣に負けがつきまくって心が痛かったです(高橋宏斗なんて6連敗)。1位の阪神と14.5ゲーム差の最下位で交流戦に突入します。反撃に向け、大野雄大の抜けた穴を埋めるべく、右腕のメヒアを獲得しました。

3. 交流戦～前半戦終了

交流戦は7勝11敗と中日らしい成績を残しただけなので、最後のカードである日ハムとの3連戦でも取り上げておきましょうか。一戦目、細川のソロで先制するも、追いつかれた後に2死一三塁からダブルスチールを決められそのまま1-2で負け。打線は結局3安打。そりゃ監督もゴミ箱蹴りますわな。二戦目、打線が珍しく機能し3点を先制するも、ピッチャーの伊藤大海にタイムリーを浴び1点返され、その後元中日のA・マルティネスに逆転3ランを浴び逆転負け。なんでこんな目に。三戦目、ただの零封負け。打線は2安打。いつも通りだから別に悔しくないし。立浪竜は新庄ハムに通算0勝6敗です。また、この時に日ハム側と交渉したのかは分かりませんが、郡司・山本⇄宇佐見・齋藤のトレードが発表されました。僕は反対でしたね、期待の若手2人放出するの普通に意味わからんし。でも今考えると、宇佐見がいなければあの伝説の試合は生まれてなかったし、齋藤がいなければ中継ぎは崩壊していたでしょう。

交流戦後、開幕から好調で二遊間を守ってきた村松、福永が調子を落とします。また、細川にも三振が増えてきて、得点不足はさらに深刻になりました。借金14を抱えて前半戦終了。オールスターには5月MVPの細川、開幕投手の小笠原、そしてこの時点で防御率0.00(!?)を記録していたR・マルティネス(以降ライマル)が選ばれました。

4. 後半戦

後半戦は見どころたっぷりで面白かったですね。いろんな意味で。

浮上のために打つ方を何とかしないとイケない立浪監督は、ビシエドを来日初の1番に据えるなど工夫を凝らしますが、なんともなりません。「突撃突撃ビシエドー」の響きは新鮮でした。)そんな中、春先不調だった岡林が夏場に調子を上げ、7月末には打率を3割に乗せます。7月の月間MVPに輝きました。また、登板がかさんでいた中継ぎ陣の補強として右腕のフェリスを獲得しました。そして伝説の試合を迎えます。

8月13日、バンテリンドでの広島戦。初回到岡林が安打を放ち、26試合連続安打を

記録。西沢道夫さんが保持していた球団

記録を更新しました。一方先発の柳は広

島打線をテンポよく打ち取っていき、9

回まで1本も安打を許さず投げ抜きます。ただ、打線も平常運転(9回まで4安打無得点)なので、柳にノーヒットノーランが記録されませんでした。この光景、22年も見たような気がする。10回表に未だ防御率0.00のライマルが登板。さすがに打たれんだろうと思ってみていたら堂林に勝ち越しソロを被弾。ライマルの0.00と柳のノーノー、全て失ってこの時の僕はファンをやめようかなと本気で思いました。しかし、奇跡の10回裏。先頭の石川がソロホームランで同点。そしてこの日5番に座っていた宇佐見がサヨナラホームラン。頭が追いつかない。勝った、勝ったんだ。

この試合以降も色々ありました。8月25日、6点ビハインドの9回表に敗戦処理として登板した近藤が10失点、「近藤の60球」。8月26日、大島が通算2000本安打を記録、おめでとうございます。

9月18日、期待の根尾が広島戦に登

板。打線が奮起し6回までに6点を先

制。根尾は6回まで無失点。ようやくブ

ロ初勝利がつくと思っていました。しかし、7回に根尾がピンチを背負って降板した後、4人のリリーフをつぎ込み(!?)6失点。更に9回堂林にタイムリーを浴び、逆転されます。根尾の勝ちがつかないどころか試合に負けると思い、この時の僕は(以下略)。しかし、9回裏2死からビシエドが奇跡の同点ソロを放ち、11回裏にカリステのサヨナラタイムリー。本当に勝ててよかった。……これでええんか？

1試合1試合の内容が濃すぎてペナントを忘れていましたね。8月までは借金が増えていったのですが、9月は12勝10敗と勝ち越し、ヤクルトと白熱の5位争いを演じます。中日は56勝82敗5分で全日程を終え、ヤクルトが阪神との最終戦に勝利か引き分けてヤクルトが5位、負けで中日が5位という状況になったので、僕は阪神を全力応援。しかし9回裏に1点差を逆転されサヨナラ負け。劇的な形で中日の2年連続最下位が決まったのでした。

5. まとめ

岡林フルイニング出場とB9、細川24本、すごい！！

3. 24年シーズンへの展望

1. 野手

外野手は岡林、細川は計算できます。残りの1棒をオープン戦好調の三好、ベテランの大島、新外国人のディカーソン、飛躍を期待される鶴飼で争う形になるでしょう。

次に内野手。三塁手は石川で計算していますが、高橋周平がレギュラーを奪うのもあり得るでしょう。一塁手はビシエドと新しく獲得した中田翔がありますが、どちらも不振の場合宇佐見や細川がつく可能性もあります。そして問題の二遊間。龍空、カリスト、福永、村松、辻本など争いは混沌としています、個人的にはケガから復帰した田中幹也に最も期待しています。捕手は順当に木下、宇佐見、石橋でしょう。

2. 投手

先発は柳、小笠原、高橋宏、そしてケガから復帰の大野雄大の4人を中心にし、メヒア、涌井、梅津などで十分回せるでしょう。これを書いている現在(3/17)発表されていない開幕投手は柳と予想しておきます。根尾の初勝利にも期待です。

勝ちパの8・9回は松山、ライマルで決定的です。他にも勝野、清水、齋藤、祖父江、フェリスなどがおり、~~お得意のマシンガン継投をしない限り~~盤石でしょう。強いて言えば左腕が少ないのが心配ですね。

4. 最後に

初めて書かせて頂いたので拙いところもあったと思いますが、ここまで読んでくださってありがとうございます。

今年こそ、中日ドラゴンズ、絶対優勝するぞ！！



オリックス・バファローズ

78 回生 泉旺佑

77 回生 齊藤智幸

1.はじめに

オリックス・バファローズは、阪急時代の 1975～78 年の 4 連覇以来となるリーグ 3 連覇を果たしました。また過去 2 年の僅差での優勝とは異なり、2 位ロッテに 15.5 ゲーム差と圧倒的な強さを見せての優勝には、名将中嶋監督によって長い低迷期を抜けたと言って差し支えないでしょう。

2.2023 シーズンの講評

143 試合 86 勝 53 敗 4 分 勝率.619(1 位)

打率.250(1 位) 本塁打 109(1 位) 防御率 2.73(1 位)

投打においてリーグトップの部門が多く、豪華な先発陣から鉄壁の中継ぎ陣への継投によって僅差の試合を落とさず、劣勢でも一気に打線が大爆発してビッグイニング...といった、チームの総合力で強さを見せつけ、完璧な優勝で 3 連覇を達成しました。

(1)開幕～6 月

開幕戦は WBC での由伸や宮城の疲労考慮もあり、山下が一軍初登板にもかかわらず開幕投手に。西武のエース高橋光成と投げ合い、5.1 回 1 失点 7 奪三振とスケールの大きさを見せた。また、FA 移籍してきた森友哉が 9 回 2 死での同点 HR を放ち、早くもファンの期待に応えた。更に、育成ルーキーの茶野が開幕戦からヒットを量産、5 月中盤時点では打率は 3 割近く、リーグトップタイの安打数を記録し、広島戦では自身初 HR を満塁弾で飾った。

交流戦では宿敵阪神に対し 9 回に頓宮、杉本のホームランで一気に逆転する試合や、宮城が中日打線を内野安打 2 本で抑え、高橋宏斗との投げ合いを完封勝利で制するなど、11 勝 7 敗の勝率 1 位タイで終えた。

前半戦は、頓宮が長打と率を両立した理想的なバッターに成長したことや、紅林が 5 月下旬に楽天の松井(現パドレス)から逆転サヨナラ HR を打ったこともあり、打撃が好調となっていた。また、宇田川や阿部、ワゲスパックらの不調の影響により、去年より中継ぎ陣に不安はあったものの、山本や宮城、山下などの先発が抑え、打線の暴力で打ち勝つような試合が多かった。しかしローテの谷間の先発が定まっていないことから、度々勝ち星を取り逃す試合が散見された。

(2)7月～8月

7月1日の日ハム戦での、森友哉の走塁時の負傷離脱に伴い、二軍で圧倒的な成績を残していたセデーニョが招集された。7月4日の楽天戦ではいきなり4番に抜擢され、2打席目でバックスクリーンへ初HRを記録すると、その後も7月11日には第3号となる満塁弾、更に7月16日からは4試合連発という物凄いパワーを見せつけ、森友哉の穴を埋めることに成功した。

また、一番大きかったのは東晃平の台頭だろう。150キロ中盤のストレートと、金子千尋を彷彿とさせる多彩な変化球で試合を作り、7月30日から無傷の6連勝、防御率2.01と圧巻の成績を残した。ローテの穴を埋めたことで中盤以降のオリックスは連勝を重ね、8月には9試合連続で2失点以内に抑えるなど投手陣に磨きがかかっていた。

(3)9月～ペナント終了

9月には2位以下とかなりゲーム差があり、本拠地で胴上げできるかどうかの問題になっていた。打線では復帰した森や復調したラオウ、安定して長打が出るようになった中川らが打線を牽引し、ブルペンでは中継ぎに配置転換された山岡、完全復活した宇田川や安定の小木田、阿部、劇場型の平野、山崎颯一郎などが鉄壁リリーフを形成していました。

そしてついに9月20日、落とせば本拠地京セラでの胴上げは絶望的という試合。先発の山崎福也が5回を投げ切れずに2失点してしまい、打線も6回まで、ロッテ先発カスティーヨに抑えられていました。しかし迎えた7回裏2死、ゴンザレスが死球で出塁、暴投の後ラオウのタイムリーで1点差！更にはまた暴投からのT-岡田ですよ。ここの声援はすごかったですほんとに。「おっかーだ！おっかーだ！」の入りから泣いてしまいました。ここは勝負を避けられ四球。さあ追いつこうという二死1、2塁の場面で紅林が逆方向への同点タイムリーを打ちます。正直ここは打った紅林もですがラオウの激走に感動しましたね。そして誕生日の野口が自身の持ち味であるフルスイングで持って行った勝ち越しのタイムリーを打ち、中川の三塁打、西野のヒット、森のツーベース...と、どんどん打線が繋がり打者一巡。結局終わって見たら6得点と2023シーズンのオリックスを象徴したようなビッグイニングでした。そして8、9回は宇田川、山崎颯一郎のいつものコンビで抑え、優勝！！！オリックスファンで良かった、そう思わせてくれるような試合、そしてペナントでした。

また、今まで苦しんでいた曾谷がシーズン最終戦では6回無失点と安定した投球を見せて念願の初勝利をマークしました。今季はローテの谷間を担ってほしいですね。

(4)CS

1戦目、まさかの由伸が大炎上。今まで全く怖くなかったポランコが打ちまくり負けるかな、と思いましたが下位打線が繋がり8得点。1勝目です。

2戦目、田嶋が6回ロッテ打線に捕まってしまい4失点。7回にセデーニョが逆転ホームランを放ちましたが、9回山岡が打たれて敗戦。

3戦目、東が5回無失点、小木田-山岡-宇田川-平野のリレーで無失点に抑え、2勝目。ここで昨日打たれた山岡を使うところはやはりナカジマジックです。

4 戦目、宮城の老獺なピッチングで 6 回を無失点。山崎と平野が 1 本ずつホームランを打たれましたが森友哉やラオウが種市を攻略し 3 勝目。CS 突破です！

CS 含め後半戦はラオウが復活したことでチームの士気が高まったことが大きかったですね。石川亮も第三捕手としてチームに帯同し、出場機会は少ないながらも盛り上げ上手でチームの雰囲気をよくしてくれました。

(5)日本シリーズ

正直あまり振り返りたくはありません。一気に書いて疲れているのもありますが、怪我人が続出して万全の状態でない時に宿敵阪神と戦うことになってしまったからです。ですので、ここからは勝手ながら私の取り上げたいところだけ書かせていただきます。

まず、山本由伸について。CS や日本シリーズの初戦にて打たれたこと、また少し脱線はしますが、ドジャース入団後の公式戦初登板で打たれてしまったことにゴチャゴチャ言っている人がいましたが、由伸は山本由伸です。日本で過去最高峰の投手と言って差し支えないです。それは他のプロ野球選手も認めています。打たれることもたまにはありますが、必ず彼なら修正して圧倒的な数字を残し、叩いていた人たちを黙らせてくれると信じています。日本シリーズ 6 戦目の投球は本当に山本由伸という感じで最高でした。

次に、森友哉についてです。打撃の不調や守備をバカにされたことが本当に悔しいです。打撃が不調と言っても第一戦には天井に当たるほどの打球を飛ばしていました。京セラの変な造りがなければホームランです。守備についても、ブロッキングは確かに若月と比べたら劣るかもしれませんが、フレーミングは高水準です。私はオリックスの全試合を見ていましたが、日本シリーズのあの場面以外では後ろに逸らすことはほぼ無かったですし、あそこだけを見て素晴らしい捕手である彼が叩かれているのはとても残念でした。

ここまで少し暗い話になってしまいましたが、ここからはポジティブな話です。

田嶋選手は第 5 戦、素晴らしいピッチングを披露した上、バッティングも上手かったです(笑)。試合には負けてしまいましたが、後半戦復帰してから直球の伸びが増していて、今シーズンはさらなる成長が期待できそうです。

宇田川選手。力でどんどん打者を制圧していく彼らしい投球を見るのはスカッとしました。投手陣の怪我やコンディション不良で三連投することになり、打たれてしまったのは残念ですが、本当に凄い球を投げていました。

ゴンザレスは、いつもの素晴らしい守備やパンチ力のある打撃だけでなく、打たれて泣いていた宇田川を慰めるなど本当にダンディでカッコいい男です。ずっとオリックスに残ってもらいたい選手ですね。

杉本選手は、CS で足を怪我しているのにも関わらず、途中から出場して森選手が打ったような天井に当たる 2 ベースを打ちました。最終打席でも惜しい当たりを打っていて彼のガッツに感動させられました。

頓宮選手は、HR を 3 本も打つなど、最後の最後まで意地を見せてくれました。最終戦 9 回の HR はオリックスファンを勇気付けるような一発だったと思います。

最後に、中嶋監督について。日本シリーズの采配でとやかく言われていた時もありましたが、間違いなく 12 球団で一番優秀で魅力的な監督です。オリックスの選手にとってもそうだと思います。ずっとずっとオリックスの監督でいて欲しいというのが、ファンの総意だと思います。

3. 今年の展望

一昨年オフの吉田正尚選手に続き、昨年オフも主力選手が退団することとなった。我らが大エース山本由伸投手は 12 年 3.25 億ドルの超大型契約で MLB へと巣立ってしまい、更にローテの一角を担っていた山崎福也投手も FA を行使し日ハムへと移籍。数年に渡り、安定の活躍をしていた彼らが抜けた結果、約 300 イニング分を他の投手で埋めなければならないという苦しい状況となっている。

特に、かつて個人軍などと言われた吉田・山本両看板が、この 2 年でどちらもいなくなったのは、本当に寂しい限り。

Q.「2024 年は山本も山崎福也もいないし終わりやね？笑」

A.「うるさい！」

というわけで今季の注目選手を見ていきましょう。

(1) 投手編

・山下舜平大投手

今年の注目選手と言ったら、まず彼を挙げる外ないでしょう。ストレート&カーブのコンビネーションで打者を制圧していく様は、まさに圧巻。野茂英雄さん直伝のフォークボールも更に磨きがかかっており、今後も成長が見逃せない大器。今年は、まず怪我なく規定投球回に到達&あわよくば宮城投手に並ぶほどの活躍を期待！

・東晃平投手

昨季 6 連勝するなど一軍で未だ無敗という育成出身の星。多彩な変化球を操る投球スタイルが、かつてのエース金子投手にも似ているという噂も...？上記の山下投手と同様、疲れが出るであろう後半戦において、自らのパフォーマンスを維持できるかに注目！

・曾谷龍平投手

2022 年のドラフト 1 位投手。田嶋投手のように球威で押すタイプの左腕。制球さえ安定すれば、山崎投手が抜けた穴を埋められるはず！彼がローテに定着できれば今後数年のローテは安泰。

(2)野手編

・西川龍馬選手

広島から地元に移籍、ようこそオリックスへ。背番号7の後ろ姿や打席での姿は完全に正尚。実質メジャーリーガーだよ、やったね！今年パリーグのピッチャーに対応できるのか、主軸として期待通りの活躍をしてくれるのか、今年も変態的な打撃で魅せてくれるのか、注目です。

・太田椋選手

2018年のドラフト1位。ここ数年における、オリックスの注目選手の常連になっている気がしなくもない。毎年けがに苦しめられ、悔しいシーズンを送ってしまっていたが、我々ファンは2022年日本シリーズ第7戦で見せたあの先頭打者HRがいまだに忘れられないのだ。今年こそは！どうか1年通して試合に出て活躍する太田椋が見たい！

4. おわりに

今年はリーグ4連覇・日本一奪還を目指すシーズンということで、キャンプに人だかりができたり、京セラが観客でいっぱいになったり、かつての暗黒時代と比べて今のオリックスの躍進は本当に嬉しい限りです。実際は投手王国と楽観視できる状況にはないかもしれませんが、暖かい目で見守りたいですね。

千葉ロッテマリーンズ

77 回生 戸田航平

最後の文化祭で初めて記事を書かせていただきます、高3の戸田です。

阪神ファン（ロッテも少し好き）程度なので全体的にふんわりした内容になっていますが、最後まで読んでいただけると嬉しいです！！

昨季の統括

① シーズンの流れ

3年ぶりのBクラスに沈んだ2022年シーズンから一転、新たに井口監督の後任である吉井理人新監督のもとチームは4月下旬に首位に浮上。7月に佐々木朗希投手が脇腹を痛めて以降は苦戦を強いられるも何とか2位を確保。ソフトバンクとのCSファーストステージ第3戦では延長11回に藤岡裕大選手が劇的な同点3ランホームランを放ち「幕張の奇跡」を演出するも、その後ペナントレースを独走していたオリックスに敗れシーズンが終了した。

② チーム成績

143試合 70勝 68敗 5分 勝率.507

得点 505(5位) 打率.239(4位) 本塁打 100(4位) 盗塁 73(4位)

失点 524(5位) 防御率 3.40(5位) 失策 83(5位)

③ 選手成績

(a) 投手

選手名	先発	防御率	勝	負	投球回	WHIP	QS
小島 和哉	25	3.47	10	6	158.1	1.26	16
種市 篤暉	23	3.42	10	7	136.2	1.24	12
西野 勇士	18	2.69	8	5	117	1.13	14
メルセデス	20	3.33	4	8	116.1	1.26	9
美馬 学	18	4.76	3	9	98.1	1.4	5
佐々木 朗希	15	1.78	7	4	91	0.75	11

規定投球回に到達したのは3年連続で小島選手のみ。怪我から復帰した種市投手、西野投手も規定到達ならずも安定した投球を披露。皆さん御存知、「令和の怪物」佐々木投手はさすがのパフォーマンスを見せるもやはりシーズン完走はできず。離脱さえ無ければ沢村賞も狙える能力を持っているので、来季こそはシーズン完走を期待したい。

選手名	登板	防御率	勝	負	HP	S
益田 直也	58	3.71	2	5	15	36
ペルドモ	53	2.13	1	3	42	1
坂本 光士郎	51	3.21	1	0	17	0
西村 天裕	44	1.25	4	0	18	0
横山 陸人	38	5.26	2	3	10	1
東妻 勇輔	36	2.91	0	1	11	0
澤村 拓一	34	4.91	4	3	18	3

救援陣では新加入のペルドモ投手が最優秀中継ぎのタイトルを獲得も、オフに流出。ベテランの益田投手、澤村投手に衰えが見え始めているので、早急な整備が必要か。

(b) 野手

選手名	試合	打数	安打	本塁打	打点	四球	盗塁	打率	出塁率	長打率	OPS
中村 奨吾	137	508	112	11	48	52	3	0.220	0.299	0.331	0.630
ポランコ	125	447	108	26	75	47	0	0.242	0.312	0.450	0.762
山口 航輝	115	421	99	14	57	43	0	0.235	0.310	0.385	0.695
安田 尚憲	122	416	99	9	43	49	2	0.238	0.318	0.361	0.678
藤岡 裕大	93	310	86	1	22	54	7	0.277	0.389	0.352	0.741
岡 大海	109	319	90	7	33	37	15	0.282	0.371	0.417	0.788
藤原 恭大	103	328	78	3	21	18	5	0.238	0.285	0.323	0.608
佐藤 都志也	103	239	52	4	22	22	0	0.218	0.289	0.326	0.616
角中 勝也	86	216	64	9	39	21	1	0.296	0.357	0.505	0.861
田村 龍弘	78	181	30	2	19	13	0	0.166	0.226	0.215	0.442
友杉 篤輝	64	185	47	0	9	9	9	0.254	0.287	0.292	0.579
荻野 貴司	50	183	44	1	19	11	1	0.240	0.302	0.311	0.613

野手陣では4選手が規定打席に到達。新加入のポランコ選手が本塁打王を獲得する活躍を見せるも、やはり得点力不足感は否めず。

安田選手、藤原選手、山口選手など若手戦力のさらなる成長が期待される。

開幕予想

先発

小島 佐々木朗 種市 西野 メルセデス 中森

救援

益田 横山 澤田 澤村 坂本 東妻 西村 ダイクストラ

スタメン

打順	守備位置	選手名
1	左	荻野 貴司
2	二	藤岡 裕大
3	DH	ソト
4	左	ポランコ
5	一	山口 航輝
6	三	中村 奨吾
7	遊	友杉 篤輝
8	捕	佐藤 都志也
9	中	岡 大海
	投	小島 和哉

個人的に期待している藤原選手がけがで離脱してしまったのが大変残念。

他にも安田選手、角中選手、石川慎選手、高部選手、和田選手などがおり、相性やコンディションで様々な形に組み替えることも視野に。

今期の展望

オフに FA 権を取得した田村選手、岡選手の引き留めに成功。さらには 2 度の本塁打王獲得経験のあるソト選手を獲得し、打線の強化に着手した。

さらに、藤岡選手を二塁、中村選手を三塁、安田選手を一塁で起用する「内野シャッフル構想」を明かしており、打線の活性化が期待される。

佐々木朗投手のフル稼働、勝ちパターンの整備、若手野手のコア化、などなどの条件がうまく重なれば優勝も十分あり得ると思うので、吉井監督の手腕に期待したい。

おわりに

この記事を読んで少しでも千葉ロッテマリーンズに興味がわいたそのアナタ！ぜひ YouTube、TikTok などで「千葉ロッテ 応援歌」を検索してみてください！気分が上がるのでおすすめです！

とにもかくにも、最後まで読んでいただきありがとうございました！！

引き続き第 78 回灘校文化祭「ODYSSEY」をお楽しみください！！！！

福岡ソフトバンクホークス

80 回生 佐々木勇人

こんにちは 中三の佐々木と申します。私自身はソフトバンクファンではないのですがこの記事を書かせていただきます。

[補強&退団]

主な補強

- ・ 山川穂高(FA で西武から移籍)
- ・ アダム・ウォーカー(巨人からトレード)
- ・ 前田悠伍(ドラフト一位)

主な退団

- ・ 甲斐野央(~~某騒動による~~人的保証にて西武へ)
- ・ 嘉弥真新也(自由契約→ヤクルト)
- ・ 上林誠知(自由契約→中日)
- ・ 森唯斗(自由契約→DeNA)

上林、森、嘉弥真の退団は痛い部分もあります(~~謎なのは牧田投手コーチ—高橋礼投手の~~制球強化→復活を狙ったのかと思っただがまさかのトレードで巨人へ)。しかし、山川、ウォーカーの補強はなかなかの打力強化につながるのではないのでしょうか。

ソフトバンクの今年の強みは他球団とは比較にならない打線の重さです。

2026 年度で引退することを発表した主砲柳田悠岐選手や、今年移籍してきた山川穂高容疑者()を始めたスラッガーや、去年二冠王を達成した近藤健介選手、今宮健太選手といったパンチ力のあるコンタクトヒッター、スピードスター周東佑京選手や牧原大成選手といったユーティリティプレイヤーと、野手の選手層は厚いです。この辺りはパ・リーグのどの球団と比べても類を見ないほどの強みなのですが、やはり投手陣、若手の台頭はなかなかないです。

ソフトバンクは金満球団なので、他球団からとった戦力で戦うのが主でした。最近は生え抜き選手もいますが、それも 30 代からの台頭が多いので…。どちらかというとなら若手は普通のドラフトより育成ドラフトを気にしましょう。

それと投手陣についてです。

先発投手についてですが、去年の規定到達者は 0 人です。今年はモイネロが先発転向しますが、それでも…金あるんやったら先発買えと思うくらいです。

中継ぎ陣について

HP20 以上は津森、松本の二人のみです。

モイネロが防御率 0.98 と無双状態。

クローザーはロベルト・オスナ(今オフ超大契約を結んだ。)

ほかにも笠谷などの若手も多少で意外に層が厚いように思えますが、誰かが怪我とかしたら、すぐに代役が出せるというわけではありません。ドラ 1 前田が出てきたらまあある程度戦えるとは思いますが。

[まとめ]

とりあえず A クラスには入れるとは思いますが。

怪我が出ない限り優勝も可能です。

ソフトバンクファンの方は過激なことをせずゆっくり待ちましょう。

東北楽天ゴールデンイーグルス

77 回生 なつめ

1. はじめに

昨年までこの記事の執筆を担当していた 76 回生の楽天ファンの方が卒業してしまったため、当サークルから楽天ファンがいなくなっていました。本拠地が東北ということもあり、やはり関西では珍しい存在と言わざるを得ません。そこで、全国の楽天ファンの小中学生の皆さんはぜひ灘に入学しましょう！そして野球ファンサークルに入りましょう！

2. 昨季の振り返り

2023 年シーズンの楽天は 70 勝 71 敗 2 分のリーグ 4 位で終わりました。ここ数年は、

シーズン序盤に凄まじい勢いで連勝&トップ争い

↓

7 月頃から連敗を重ねて急に順位を落とし始める

↓

シーズン終盤に激戦の A クラス争いを繰り広げる

という展開が恒例となっていました。昨季は一転。春は鳴りを潜め浮上に苦しむ一方、例年鬼門だった 7 月では逆に 15 勝 7 敗と大きく勝ち越した結果、またしても最終盤に A クラスを争うことになりました。

苦しかった昨年の序盤でポジれることと言えば、春の開幕戦でしょう。日本ハムが新球場に移転して最初の公式試合、記念すべきエスコンフィールド HOKKAIDO 第一戦。いったい誰がエスコンの初記録を残すのかという注目の中、まあほとんどの名誉な記録を楽天側が掻っ攫っていききましたね。(※)

※楽天の選手が保持するエスコンの主な初記録（敬称略）

初勝利：田中将大

初ホールド：鈴木翔天&宋家豪&西口直人

初セーブ：松井裕樹

初安打：マイケル・フランコ

初本塁打&初打点：伊藤裕季也

初盗塁：小深田大翔

初犠打：黒川史陽

一方で、10月10日に行われたシーズン最終戦をよく覚えている方も多いのではないのでしょうか？勝てばAクラス、負ければBクラスとなるロッテとの直接対決、則本投手 vs 小島投手という両エースが先発、23年レギュラーシーズン最後の試合だったこともあり、かなり大勢の野球ファンが観戦していたはずですが。結果として、打線は小島投手の前に6安打完封とエースの貫録を見せつけられ、そのままシーズンが終了してしまったわけですが....

さて、昨年の成績を見てみると、野手成績で目につくのがリーグダントツ1位の102盗塁です。36盗塁で盗塁王を獲得した小深田選手をはじめ、辰巳選手、山崎選手、小郷選手、村林選手が2桁盗塁を記録しています。また、リーグ平均と比べ三振の少なさと四球の多さが目立ち、出塁&盗塁で得点圏に進みチャンスを多く作っていました。

他方、投手陣は、先発防御率3.52（リーグ最下位）、救援防御率3.27（リーグ5位）、奪三振率6.53（リーグ最下位）、被打率.245（リーグ最下位）と軒並み悪くかなり苦しんでいましたね。

また、時期ごとに見てみると、浮上に苦しんだ春先では打線の得点力がかなり低調だったのに対し、逆に7月以降は打線全体が大きく復調したことで、打ち勝つ試合が多くなったと言えます。（交流戦前の打率.209に対し、交流戦後の打率は.256）

3. 今年の展望

長年チームの守護神を務めていた松井投手がパドレスへ移籍し、則本投手がまさかの抑え転向とのことで、今江新監督が早速思い切った配置転換をしてきました。松井投手も勿論支配的な投球で他球団を抑えていましたが、普段長い回を投げていた則本投手が1回限定で投げるとどれくらい球威球速が増すのでしょうか。また、田中将大投手が開幕を2軍で迎えたこともあり、今年の開幕ローテは昨年終了時の先発ローテとはかなり違った陣容となっています。早川投手・荘司投手・内投手と比較的若めの先発ピッチャーがどこまで他球団のエース級と張り合えるかに注目したいです。

野手では、島内選手の復活に期待がかかります。最多安打とベストナインを取った22年から一転、去年は全体的に大きく成績を落とし、悔しいシーズンを送ることになりましたが、今年も活躍できないなんてはずはありません。浅村選手の後ろを打つバッターが楽天打線における得点力を左右することや、ここ数年島内選手がその役割を担っていたことから、今年の島内選手の出来はかなり大事になってきます。

また辰巳選手の打力が着実に向上してきていることも見逃せません。打率.270&15 本塁打以上の成績を残した暁には、走攻守兼ね備えた、リーグを代表するスタープレイヤーと言えるのではないのでしょうか。

4. おわりに

この現代野球で 200 勝を達成できるかと言われているマー君とダルビッシュ投手ってほんと抜きん出てすごいですよね。色褪せない実績というかなんというか…。マー君がもう一花咲かせるところを、いち NPB ファンとして楽しみに待ちたいと思います。
ご精読ありがとうございました。

西武ライオンズ

77 回生 梶原丞陽

ーはじめに

僕は野球ファンサークルに所属しておらず、加えて巨人ファンなのですが、会長との賭けに負けたのでこの度ライオンズの記事を担当させていただきます。

潮崎哲也、西口文也、松井稼頭央といった個人的に好きな OB 選手がライオンズに多いこと、また、西武時代の森友哉選手が好きだったことなどから、ライオンズを選択しました。

普段はセリーグの試合を中心にしているので、あまり深掘りはできないかもしれませんが、本稿では知っている限りで来季のライオンズについて頑張ってみて書いてみました。個人的な感想が多めですが、ご了承ください。

ー本題

今のライオンズの強みといえばまさしく投手陣です。山賊打線の名を轟かせていた数年前とは打って変わってまさしく投手王国といえるでしょう。

〈先発ローテ〉

○がついている投手は当確だと思います。残りの 1 枠を△の投手が調子次第で争うことになるのではないのでしょうか。

○高橋光成

前橋育英を甲子園初出場で初優勝に導いた大エース、一時期スマホの壁紙にしていたくらい昔から好きな投手の一人です。まさかここまでロン毛になって体も大きくなるとは思っていませんでしたが。言わずもがな実績も充分で、調整こそ少し出遅れましたが、一年間無事にローテを回れば申し分ない成績がついてくると確信しています。

○今井達也

僕が高校野球を一番見ていた時期の優勝投手で思い入れの深い選手です。確か北海高校のエース大西君が 4 連続完投で決勝まで勝ち上がってきて（間違っていたらごめんなさい）、その爽やかイケメン大西君が好きになった僕は決勝戦でも北海高校を応援していたのですが、今井投手の 150 キロを連発するピッチングに圧倒された記憶があります。年々着実な成長を遂げていますが、3/15 のオープン戦でも惚れ惚れするようなストレートの伸びを見せていました。怪我さえなければ十分タイトルを獲得力のある投手だと思います。

○平良海馬

安定感という言葉が一番似合う投手でしょう。先発転向を聞いたときは、もうリリーフでの無双が見られなくなるのかと少し残念でしたが、先発に転向して即結果を出す能力の高さにはただただ脱帽です。僕は桑田真澄投手のファンでフィールディングの良い投手が好きなのですが、あの巨体で機敏なフィールディングができるのは本当に凄いですね。YouTube を見ていると、たいらげーむの切り抜きがよく回ってきますが、受け答えも面白いです。

○隅田知一郎

侍ジャパンでの投球も圧巻でしたが、フォークとチェンジアップが低めに決まっている間は打たれることはまず無いですね。ストレートの球威が増したことで落ちる球がより活きているように感じます。個人的にダイナミックな投球フォームのサウスポーが好みなので、ヤクルトの高橋奎二とともに応援しています。3/16 のオープン戦でも奪三振マシンと化していましたし、ルーキーの武内君と最強左腕コンビを作ってほしいです。

○武内夏暉

コントロールは言わずもがな素晴らしいですが、球の強さも想像以上にあります。オープン戦の中日との試合でわかる通り、牽制の技術も高く、サウスポーの強みを最大限活かしていると思います。肩が動くのがかなり遅く、牽制を見破るのは難しそうですね。一年間ローテを守れば、ある程度の成績は残せるのではないのでしょうか。個人的には炭谷との相性が良さそうに見えました。

△松本航

ストレートが走っている日は本当に素晴らしいピッチングを披露してくれます。昨季の最終登板も圧巻で、その能力の高さ故、課題を克服して是非ローテを回ってほしいと思います。

△與座海人

希少なアンダースロー投手で、22 年には二桁勝利を上げた実績もあります。いつの時代もサブマリンには惹かれますね。今後のサブマリンの繁栄のためにも頑張ってください。

△ボータカハシ

ブラジル出身の選手といえば、数年前、巨人にいたビエイラを思い出しますね。今年から先発転向ということで未知数な部分はありますが、ストレートに力がありますし、ある程度コントロールが良くなれば面白いと思います。

〈リリーフ〉

抑えは甲斐野投手で良いと思います。人的補償でこのクラスの投手が獲れたことは相当大的きいですね。個人的に注目しているのはヤン投手で、ストレートもなかなか力がありますし、スライダーに関しては左打者にかなり有効な印象を受けました。パフォーマンスは中々派手ですが、怪我をしないようにだけ気を付けてほしいです。あとは、個人的にシンカーが一番好きな変化球ということもあって（最初に書いたように潮崎さんが好きなものこのためです）、糸川投手にも注目しています。ドラフト7位でこの投手が獲れたのはラッキーだと思います。他にも、佐藤隼輔、水上由伸、豆田泰志等期待できる投手が多くいるので、リリーフは心配していません。

〈スタメン〉

一 アギラー
二 外崎
三 佐藤
遊 源田
左 コルデロ
中 長谷川
右 蛭間
捕 古賀
DH 中村

これに関しては異論も多くあるかと思います。特に外野手は、誰を起用するかはその時の調子次第になりそうですね。アギラー、コルデロがどれだけ打てるかが、今季の順位に直結するでしょう。この二人が機能するかどうかで、充実した投手力を活かせるかどうかが決まります。捕手の古賀選手については、盗塁阻止率は素晴らしいですし、打撃も上がってきているので、リード面等の捕手スキルを大ベテランの炭谷選手からは是非学び取ってほしいです。今のプロ野球で非常に好きな選手の一人、源田選手には今年も多くのたまらんを見せてもらいたいと思います。また、オープン戦での金子選手の調子が良いらしく、山賊打線の一角を担っていた時期を見ていた僕にとっては復活してほしい選手の一人です。今後の調子によっては開幕スタメンもあり得るでしょうし、再び盗塁王に輝いていたときの活躍を見られるかもしれません。

以上、このような素人の戯言をお読みいただきありがとうございました。

日本ハムファイターズ

79 回生 畝健心

1. 昨年の総評

エスコンフィールドに移転後 1 年目の昨年は 60 勝 82 敗で 5 位と 5 ゲーム差で 2 年連続の最下位でした。若手中心で仕方がないことではあるものの、ここ 5 年ほどずっと下位に沈んでいるのでファンとしてはそろそろ順位を上げてもらいたいですね。詳しく見ると福田俊が覚醒するなど、投手陣の防御率が 3.08(昨年のチーム防御率は 3.46)とリーグ 3 位で大健闘。入団以降エース級の活躍を続けていた伊藤が WBC 燃え尽き症候群？で防御率 3.86 と調子を落としていた中でこの数字なので投手陣全体のレベルが上がっているのは、最下位に沈んだチームのポジティブ要素ですね。野手陣はリーグでダントツワーストの 82 失策。チーム打率も 6 位と野手陣に多く課題を残すシーズンとなりました。

2. 今年の戦力

2.1 投手編

<先発> 昨年 先発防御率 3.14(リーグ 3 位)

右:伊藤、北山、金村(鈴木、田中瑛、生田目、バーヘイゲン)

左:加藤貴、山崎、上原、根本、細野

数としては多いものの、実際計算できるのは加藤貴、伊藤、上原、山崎の 4 人であと 2 枠は不確定要素が多いです。昨年の後半、金村と根本が 4,5 登板し、結構二人ともよかった印象があるので、その 6 人でのローテが無難かと思われます。昨年一番イニングを投げた上沢が移籍した割にはチームの戦力として大きな穴にはなっていないと思います。

<中継ぎ> 中継ぎ防御率 2.95(リーグ 4 位)

右:田中正、池田、玉井、石川、山本、杉浦、ロドリゲス(福島、鈴木、北山、マーフィー)

左:河野、福田、宮西(堀)

リーグ全体で平均防御率が低くなっているとはいえ、中継ぎ防御率が 2 点台なのは大したものだと思います。特筆すべきは福田俊と 50 登板以上した 3 名(池田、河野、玉井)でしょうか。福田は言わずもがな昨年 29 登板無失点で被打率は脅威の.128 を記録。昨年は抑えを田中正義が務め、防御率は 3.50 ではあったのですが、初めてシーズンを通して投げ、抑えという難しいポジションをしていたことを考慮すると及第点ではあると思います。チームとしても、2022 年から固定できていなかった抑えを固定できたのは大きかったと思います。今年度の田中正の更なる飛躍に期待です。堀も最優秀中継ぎを獲った良かった頃を知っているだけに、復活してほしいところです。

2.2 野手陣

昨年オーダー

1 4 加藤豪	.210	6 本	16 点
2 7 松本	.276	3 本	30 点
3 5 清宮	.244	10 本	41 点
4 9 万波	.265	25 本	74 点
5 3 マルティネス	.246	15 本	66 点
6 0 野村	.236	13 本	43 点
7 6 上川畑	.212	0 本	18 点
8 2 伏見	.201	3 本	12 点
9 8 五十幡	.228	0 本	6 点

新加入、若手の選手が多く出場した昨季はチーム打率 6 位、失策数ワーストと残念な結果に終わってしまいました。若手が多いから...まだ成長過程だから..と言いつつ、3 年ほど経ってしまいました。そろそろ打線・守備ともに頑張っ欲しいと思うものの戦力的に仕方がないような気がします。個人成績でみると、万波が打低リーグの中、打率.265 本塁打 25 本 ops.788 を記録。更に守備も良く、B9 並びに GG を獲得し、覚醒しました。松本も 2022 シーズンには劣るものの、安定した成績を残しました。しかしそれ以外がお世辞にも良いとは言えず、加藤豪は交流戦のあたりは絶好調だったのですが、その後数字を大きく落としてしまい、最終的には.210 となるなど、やはりチームとしての課題点は打撃、そしてポジションを固定しなかった影響もあると思います。守備だと思います。とはいえ清宮、野村など毎年成績を上げていっている選手も多く、昨年より今年のほうが打撃面は改善すると信じています。

2.3 新戦力

今年度も多くの選手が新しく入団しました。中でも個人的に注目の選手をピックアップします。

(1)レイエス

今年の目玉補強とも言えるこのレイエスの獲得。近年はメジャー通算 100 本など言ってもハズレの外国人が多く、過度な期待は禁物ではありますが、ハマってくれたら一気に日ハム打線が強力打線へと急変する、優勝を目指すとしたら必須の”ピース”でしょう。年齢も 28 歳とこの手の外国人にしては若いのもいいですね。

(2)バーヘイゲン

過去 2 年間、日ハムに在籍経験があるバーヘイゲンが帰ってきます。昨年もメジャー 60 登板していて、オープン戦時点で怪しいですが、過去日ハム在籍時の良かったときのようなピッチングをまた見たいものです。

(3) スティーブソン

オープン戦時点で現実的に開幕から一番活躍しそうなのはこのスティーブソンだと思います。オープン戦で3割を超えていて、シーズンもこの調子でいけると足も速いので、近年稀にみる超優良外国人になるかもしれません。

(4) 細野晴希

細野はドラフト1位で外れ外れ1位ではあるものの、大学3年時からドラフト1位候補で注目されるなど実力は十分。今どきルーキーから活躍しろというのは酷かもしれませんが、1年目から活躍できる力はある選手だと思います。

(5) 進藤勇也

進藤はドラフト2位で、入団したのですが、大学日本代表の捕手を3年時から務めていた大学ナンバー1捕手で伏見等、日ハムは捕手が多いので今年はあまり出場機会が多くないかもしれないですけど、将来的には日ハムの捕手を背負うこと間違いなしといってもいいくらいの存在です。

ここでは紹介できてないですが、ドラフト3位の走攻守三拍子そろった選手の宮崎他ドラフト指名選手、最速160km/hを超えるザハラ、育成から支配下登録された福島蓮などにも期待です。

3.最後に

この記事は3月23日に書いているのですが、これを読んでいるころにはどうでしょうか。日ハムは今オープン戦で4位ですが、シーズン始まってからはどうなっているでしょうか。福田俊の無失点は続いているでしょうか。オリックスも今の三連覇の前は最下位でしたし、今の日本ハムは生きのいい若手が多く、Aクラスないしは優勝するポテンシャルがあるチームだと思います。~~とりあえず西武あたりを蹴落として最下位脱出~~今年は、とりあえずは最下位脱出、あわよくばAクラスを期待したいところですね。

1 2 球団の応援歌とチャンステーマについて

8 1 回生 吉原 旅

8 1 回生の吉原です。野球観戦の楽しみ方はたくさんあります。その中でも現地に行き、たくさんの同じユニフォームを着た人と一緒に応援するという、野球観戦の元となった方法があります。ここでは、そこでみんなで声を合わせて歌う、応援歌やチャンステーマについて書いていこうと思います。

1. バファローズ 「○○！○○！かっとなせ！○○！」

バファローズは中軸の選手にはだいたい前奏や A メロ、B メロが付いています。逆に付いていない選手でいえば宗、杉本、中川くらいです。森友哉はたくさんのバージョンがあります。また、西川龍馬の新応援歌にも前奏がついていました。

バファローズのチャンステーマといえばタオル、欲球根性や丑男が思いつきましたが、個人的にはいわゆるマルチテーマと呼ばれる「Buffa Yell」が好きです。これは皆さんに一度は聞いてもらいたいです。

2. マリーンズ 「かっとなせ！○○！」 or 「○○ヒット！×3」

マリーンズは応援歌の起源であり、数々の魔曲を生み出してきました。メッセージ性のある歌詞というよりも耳に残るリズムと掛け声が印象的です。角中と中村奨吾の応援歌は野球ファンならだれでも知っているように思います。僕は荻野、藤岡、岡、高部がお気に入りです。新応援歌ではソトの応援歌がまたまた魔曲になりそうな予感がするほど中毒性がありました。

チャンステーマについても癖のある音楽が多く、一体感が度々話題となります。チャンステーマ 1～5 のうち 2 はあまり使われませんが、それ以外はえげつない一体感を見せつけられます。特にチャンステーマ 3 は高校野球でも使われ、この記事の筆者吉原もこのチャンステーマ 3 を野球中継で観て、応援歌に興味を持ち始めました。旧チャンステーマもいい応援歌で、スキンヘッドランニングと「Calling Calling」は僕の YouTube の再生リストに入れてよく聞きます。

3. ホークス 「かっとなせ！○○！」

他の球団よりもかなり数の多い個人応援歌数を誇るソフトバンクホークスですが、投手の個人応援歌もたくさんあり、東浜、武田、和田、石川、松本さらに育成契約の奥村、ま

た移籍した甲斐野、森など 16 選手に加え、この度又吉、有原、藤井など 6 人の投手応援歌が追加されました。そして球界を騒がせた山川穂高の移籍。オープン戦に作られた「戒め」という言葉が入った応援歌が非常に話題になりましたが、なんと開幕一日前に応援歌が変更される、という異例の事態が起きました。狙いはわかりませんが、いずれにしてもオフに山川は、いろいろな方面で注目されました。

4. イーグルス 「○○！○○！オー！○○！」

楽天は自分にとってもう 12 球団の中でも 1 番関わりがない球団であり、知っている選手も少ないです。ただ、やはり挙げなければならないのが「ここで島内」です。一時期応援歌の話題をかつさらっていききました。「オオオ～オオオ～」の部分の中毒性は高いです。チャンステーマはしっかり知っているのでチャンステーマについて書きましょう。「チャンス突撃」「ここで打て」「ベニーランド」に加え、昨シーズン追加が発表された「レッツゴーわっしょい」など豊富な種類があります。応援歌を歌っていて特に楽しい球団かもしれません。

5. ライオンズ 「かっとなせ！○○！」

ライオンズもなかなかの癖のある応援歌を持っています。全体的に見ると個人応援歌にはよくある応援歌に見えますが、一つ一つのものをよくみるとすごく工夫が凝らされています。単純なもので終わっていない、という感じがします。個人的には外崎の応援歌が好きです。

チャンステーマは筆者吉原の好きなチャンステーマ上位にあるものがあります。チャンテ4です。このチャンテは男声パートと女声パート、そして全員で歌うパートがあり、相手に威圧感を与えます。これは皆さんにもきいてほしいですね。また「西日本限定チャンステーマ」もシンプルですが癖が強く、歌いやすい名曲となっています。

6. ファイターズ 「かっとなせ！○○！」

ファイターズの個人応援歌は、非常にシンプルで覚えやすく、歌いやすいものとなっています。昨年の最下位からの脱出を図るためにも新戦力も活躍が必要です。今シーズン、新たに外国人助っ人のスティーブソン、レイエスが入団しました。二人の応援歌も無事できて、万全の戦力でシーズンに望めそうです。

チャンステーマは個性的なものが多く、北海道にちなんだ「ジンギスカン」を引用したチャンステーマ、男女でパートが分かれて歌う「チキチキバンバン」と、楽しいチャンテながら、これも覚えやすく、シンプルでいいですね。

7. タイガース 「かっとなせ！○○！」

2023 年シーズン日本一に輝いた阪神タイガース。これはタイガースファンの応援の支えがあつてのことです。セリーグにとって、恐怖であつた 1, 2 番の強打俊足コンビ、近本中野の応援歌を聞いてしまうとまた塁に出るのではと思つてしまいます。また、大山のチャンスバージョンも出ましたね。恐怖マシマシです。

収容人数が減茶苦茶に多く、さらに複雑な応援歌ではなく球場にいるファンみんなが歌えるものとなっているためチャンスの時に流れるチャンテは大迫力です。「チャンスわっしょい」「チャンス襲来」が流れると必ず失点するような気がしてしまいます。

8. カープ 「かっとなせ！○○！」

ついつい口ずさんでしまう、そんなカープの応援歌。複雑で、難しく、独特な応援歌というはないのに、耳に残つてしまい、気づけば口に出している、なんて経験があるのは僕とカープファンだけでしょうか。西川龍馬の応援歌は特に好きだったのですが、オリックスに移籍してしまい、歌われなくなつてしまいました。また戻ってくるとかないんでしょうかね。

9. ベイスターズ 「かっとなせ！○○！」

この記事の筆者吉原自身がベイスターズファンでありよく甲子園に行つて横浜戦を見に行くのですが、やはり応援しているチームであつてベイスターズが一番かっこいいなと思います。牧の前奏部分で「牧秀悟」と叫ぶところは他球団のファンのでも好きな方は多いのではないのでしょうか。また今年も度会など期待の若手の新応援歌の発表がされました。林の応援歌はかっこよかったですね。石上のものも、活躍したらシーズン中に作つてほしいですね。

10. ジャイアンツ 「かっとなせ！○○！」

ジャイアンツの応援歌もホークスと同様多いです。特に投手も「え、この人もつくつてゐるの」みたいなのがたくさんあります。そしてもう一つの特徴が長いんですよね、普通の応援歌よりも。丸や秋広は長いです。坂本は・・・長いような気がするだけか。長いと歌詞の内容が多く、伝わりやすい、メッセージ性があるということとも言い換えられましょう。ずっと歌っているというか。ロッテと対照的みたいな感じですね。

チャンステーマは個人的に「ライディーン」というのが好きですね。かなり高音で歌うので、歌うとしんどいかもしれません。

11. スワローズ 「かっ とばせ！ ○○！」

短くコンパクトな応援歌が魅力のスワローズですが、中軸を担う選手にはみんなが知っている前奏が付いています。山田の「やまだてつと！」、村上の「闘志溢れる一打～」、オスナの「ホームランホームランオスナ～」などがあり、サンタナに前奏がないのも不思議なくらいです。

またルパン三世のテーマ、夏祭りをそのまま引用したチャンステーマ1，2もよく聞きます。

12. ドラゴンズ 「かっ とばせ！ ○○！」

ドラゴンズは今シーズン、大型補強をして応援歌も増えました。中田翔の応援歌も出ました。これは・・・古文か？みたいな感じの曲でしたが、試合中に流れると嫌な感じはしそうです。そして中日はビシエドのチャンス ver.がかっこよすぎます。なんとも言えない独特な雰囲気をスタジアム全体に出してくれます。

チャンステーマも粒ぞろいです。与田監督が「お前」に引っかかって一時期演奏中止になった、チャンステーマ1（通称サウスポー）や、大事なチャンス時に使用されるイメージが強い、チャンステーマ2など、他にも、数多くの素晴らしいテーマがあります。今年度はもう少し使える機会が増えるといいですね。

ピッチクロック導入について

81 回生 谷村維吹

1. ピッチクロックとは

ピッチクロックとは、米メジャーリーグで 2023 年から導入されている制度です。試合の時間短縮・ペースアップを目的としたルールで、投手、野手ともに既定のルール違反をすると、ボールまたはストライクが宣告されます。これとともに、牽制の回数にも制限が加えられました。

投手

	何秒以内に	どうしたら	罰則
ランナーがいないとき	15 秒以内	投球を開始しないと	1 ボール
ランナーがいるとき	20 秒以内 (今季から 18 秒以内)	〃	〃
打者が交代するとき	30 秒以内に	〃	〃
ランナーがいるとき	3 回以内に	牽制に成功しないと	ボーク

野手

常に	残り 8 秒以内	投手に注意を向けないと	1 ストライク
----	----------	-------------	---------

2. 導入の経緯

アメリカでは近年、バスケットボールやアメリカンフットボールなどの時間制のスポーツが人気で、野球人気は下火になってきています。その理由として、野球の試合時間の長さが挙げられます。小さい子供や野球を見始めた人が試合最後まで集中できず、それが野球の不人気につながっているのです。米 CNN の調査では、アメリカ国内の成人に好きなスポーツを聞いた際、1 位はアメリカンフットボール (34%) で、野球はバスケットボールと同率の 2 位 (11%) だったそうです。

この野球の人気低下に歯止めをかけるためにピッチクロックが導入されました。

アメリカの大学野球リーグ、サウスイースタンカンファレンスリーグでは 2010 年から採用しています。そして 2011 年から全米大学体育協会がピッチクロックの義務化を検討し、ランナーがいないときに限って導入されました。プロリーグでは、日本でいうオープン戦や春季教育リーグに当たるようなアリゾナ・フォールリーグで 2014 年から導入されました。2015 年からはダブル A トリプル A で導入されました。

試験的に導入されていたマイナーリーグで、2021 年の平均試合時間が 3 時間 3 分だったのに対し、2022 年には 2 時間 38 分まで短縮されました。実に 25 分の短縮です。このデータがあったことで 2023 年シーズンからメジャーリーグで導入されました。

3. 導入の結果

ピッチクロックの導入により、2023 年シーズンの平均試合時間は 2 時間 40 分で、2022 年からは 24 分、2021 年からは 30 分短縮されました。また、総観客動員数は約 7075 万人で、2022 年の 6456 万人から増加し、2017 年以来の 7000 万人を超えました。アメリカ大リーグ機構はこれを試合のスピードアップが観客の増加につながっているとし、ピッチクロックが一定の効果を得ていることがわかります。

4. 他のリーグでの導入

韓国リーグ（KBO）では、今季から 2 軍でピッチクロックを導入しています。オープン戦でもテスト的に導入されていて、平均試合時間は今年のオープン戦から約 23 分短縮されたそうです。（2 時間 58 分→2 時間 35 分）ちなみに韓国リーグでは、今年からストライク自動判定システムを導入しています。

台湾リーグ（CPBL）では、今季からピッチクロックやタイブレーク制が導入されました。（走者がいないときは 20 秒、走者がいるときは 25 秒以内）

5. ピッチクロックの課題

日本の社会人野球でもピッチクロックが導入されているが、タイマーを確認する塁審から球審への伝達遅れが原因で勝ち越し打がやり直しになることがあり、やはり混乱は生じてしまいます。また、野球の醍醐味でもある接戦の終盤戦で、間を長く取りたいのにならず、ピッチャーは投げづらさを感じてしまうこともあります。個人的には、3 点差以内の終盤はピッチクロックを適用しないというようなルールを付け加えたほうが良いと思います。

6. NPB では

日本球界では、先述の通り社会人野球や一部独立リーグでピッチクロック制が導入されています。これらの結果を鑑みて NPB での導入をするというような流れだと思います。ま

た、昨年の7月のプロ野球オーナー会議で、オーナー側がNPBにピッチクロック導入を検討するように指示していたので、近いうちに導入されると思います。

7. 終わりに

試合時間の長さによる野球熱低下を止めるために導入されたピッチクロックですが、メジャーリーグでは試合時間の短縮と観客数の増加の効果を得ています。ですが、導入したことによる選手間のトラブルは避けられません。また、チャンスやピンチの場面で罰則が加えられることで、本来ドキドキする場面が一気に冷めてしまうようなことも起きてしまいます。様々な側面があるピッチクロックですがまだまだ議論を続け、よりよい制度になることを願います。

次世代スターを探せ！プロスペクト特集

77 回生 戸田航平

77 回生 齊藤智幸

～はじめに～

この記事では、NPB12 球団に所属する数多の若手選手の中から「新人王の資格を持っている選手」という条件で選出した「プロスペクト」にあたる選手をセ、パ両リーグから3選手ずつ紹介します。ぜひ今シーズンの野球観戦の参考にしてみてください！！

～セ・リーグ編～

① 門別 啓人（阪神タイガース）

東海大札幌高校-阪神 183 cm 86 kg 2 年目 19 歳 左投左打 投手

最速 150 キロの速球が武器の本格派左腕。

東海大札幌高3年時に1試合20奪三振をマークし注目され、2022年ドラフト2位で阪神に入団。

ルーキーイヤーの昨年は主に二軍で経験を積み、12試合の登板で2勝2敗2セーブ、防御率2.78の成績を記録。シーズン終盤には1軍に昇格し、初の先発マウンドとなった9月30日の広島戦では5回無失点の好投を見せるも勝ち星はつかず。高卒2年目となる今季は開幕1軍を勝ち取り、プロ初勝利、さらには先発ローテーション定着を目指す。



② 田村 俊介（広島東洋カープ）

愛工大名電高校-広島 178 cm 97 kg 3 年目 20 歳 左投左打 外野手

強打が売りの外野手。

愛工大名電高では最速 145 キロを誇る左腕として活躍した傍ら、野手としても高校通算 32 本塁打を放ち注目を集め、2021 年ドラフト 4 位で広島に入団。

ルーキーイヤーはケガの影響で1軍出場はなし。ファームでも43試合出場、打率.185と満足のいく成績を残せず。

しかし2年目となる昨季はファームで59試合の出場、打率.278、4本塁打、29打点を記録。シーズン終盤に1軍に昇格すると10試合の出場で打率.364をマーク。



オフには侍ジャパンにも選出され、一躍話題になった。

高卒3年目となる今季は外野のレギュラーに定着し、一定の成績を残したい。

③ 松尾 汐恩 （横浜 DeNA ベイスターズ）

大阪桐蔭高校-DeNA 178 cm 78 kg 2年目 19歳 右投右打 捕手

甲子園通算5本塁打を誇る強打の捕手。

大阪桐蔭高3年時には正捕手としてチームの選抜甲子園優勝に貢献。U-18 高校日本代表にも選出されるなどの実績を残し、2022年ドラフト1位でDeNAに入団。

ルーキーイヤーの昨季はファームで104試合に出場、打率.277、7本塁打、51打点という新人らしからぬ成績をマーク。9月6日のヤクルト戦ではイースタン・リーグ史上12人目のサイクルヒットも記録。

高卒2年目となる今季は開幕1軍にも名を連ね、レギュラー奪取への期待が高まる。



～パ・リーグ編～

① 中森俊介（千葉ロッテマリーンズ）

明石商業高校-ロッテ 182cm90kg 4年目 21歳 右投左打 投手

高校3年生の年に桐生第一高（群馬）との試合で2失点完投勝利を収め、2020年ドラフト2位指名を受けた4年目高卒右腕。

昨年ソフトバンクとの開幕戦で中継ぎとしてデビューを果たすと、一軍で13試合20イニングを投げ、防御率3.54の成績を残した。特に、昨年9月以降の防御率は0点台に抑える好投を見せるなど成長著しく、間違いなく将来のエース候補だろう。

今年は、開幕一軍でこそないものの、順調に進めば一軍での先発機会も早めに得られると思われる。小島投手など、エースの壁はかなり高いが、先発ローテに入ることができるか注目！



② 羽田慎之介（西武ライオンズ）

八王子高校-西武ライオンズ 191 cm 84 kg 3 年目 20 歳 左投左打 投手

2021 年ドラフト 4 位指名を受けた、高卒の大型左腕。

甲子園の出場経験こそないものの、某パリーグ tv で彼の二軍でのピッチングの動画を見たことがある人も多いのではなかろうか？そう、MLB の大投手ランディ・ジョンソンを彷彿とさせる、あの投手である。見たことない人は、今すぐ「羽田 パ・リーグ」で調べよう！

高校時代は 140km/h 前半だったストレートも、高卒 2 年目となる昨季は最速 157km/h を記録し、二軍で 8 試合 29.1 イニングを防御率 2.15 という好成績を収めていた。

一方で 15 四球など制球力が課題とされており、その制球力が改善されれば一軍でも見られるはずだ！



③ 池田陵真（オリックスバファローズ）

大阪桐蔭高校-オリックス 172cm85kg 3 年目 20 歳 右投右打 外野手

大阪桐蔭高校で 1 年生のころからレギュラーに定着し、西谷監督に「森友哉の右バージョン」と太鼓判を押されたほどの好打者。

2021 年ドラフト 5 位指名を受けると、ルーキーイヤーの 5 月に一軍初出場、そのままプロ初ヒットを記録した。昨年は一軍で 12 試合で打率.206 の成績だったが、二軍では最高出塁率と首位打者のタイトルを獲得するなど、飛躍の一年となった。日本シリーズでも第一戦で 1 番に抜擢され、経験を積んだ。

現状チームの外野陣は西川龍馬や中川圭太をはじめとして、かなり高い壁ではあるが、今年は一軍での出場機会を増やし活躍を見せられるだろうか。

